



平成 26 年 9 月 11 日

国際審判員 松田 雅彦
(神奈川県ボート協会)

ASIAN ROWING JUNIOR CHAMPIONSHIPS 2014
(Sep, 4th, – 7th, 2014 Yi-Lan, Taiwan)

I. はじめに

2014 年 9 月 4 日 (木) ~9 月 7 日 (日) に台湾 宜蘭で開催されました ASIAN ROWING JUNIOR CHAMPIONSHIPS 2014 に国際審判員として参加致しましたので、審判業務及び大会概要に就きまして報告申し上げます。

本大会に派遣させて頂きました事に就きまして、日本ボート協会 上野審判委員長、千田国際委員長、相葉事務局次長、事務局審判担当 竹内様に心より感謝を申し上げます

尚、今大会においては Jury(Starter)のミスにより Japan Crew(JW1X Heat)が再レースを行いました。(後述致します)

II. 渡航及び宜蘭

9 月 2 日 (火) 18 時 20 分羽田発、同日 21 時 00 分松山空港着。空港では OC の方の出迎えがあり、車で約 2 時間、宜蘭に無事に到着した。

宜蘭は台湾北東部に位置し、三方を山に囲まれ、東部は太平洋に面している。自然、田園風景、歴史的建造物等で有数の観光地となっている。台湾では珍しい円形の城壁に囲まれた街であったが、城壁は取り壊され、今は旧城壁が城壁跡をなぞって走り、昔の面影を伝えている。

日本の統治下にあった時代が開庁され、初代の宜蘭庁長は西郷隆盛の長男の西郷菊次郎との事。



※昔の日本の建造物を観光として保存

今回の宿泊は ITO4 人一部屋となった。タイ、インド、香港、日本である。4 か国の相部屋はそう経験出来るものではないだろう。快適に過ごせたのは互いの気遣いがあったからである。

ホテルからコースまでは徒歩 15 分程度、クルー関係者の多くも同じホテルであった。各国には数台の自転車も貸与されていた。セレモニー、懇親会場も徒歩範囲にあり、移動に困る事はなかった。



ホテル内の横断幕



ホテル前 各国の国旗



掲示板



ホテル内に設置された受付(IDも配布)

※Opening Ceremony



※Welcome Party



地元高校生による生演奏

III.大会概要

1. 大会日程

- 9月4日(木) Heat
- 9月5日(金) Repechage
- 9月6日(土) Final A/ Final B
- 9月7日(日) Final A/ Final B

台湾 ITO Mr. Mao 氏が、新学期が始まったので学生ボランティアの参加が少ない、と言われていたが、全く問題無く主に高校生のボランティアの方々が参加していた。

2. コース

Dongshang River Regatta Course

コースは 2000m 、0 レーンから 7 レーンの合計 8 レーンあり、レースは 1 レーンから 6 レーンまでで行われた。レース中の練習区域は発艇から上流約 100m、Cool down はゴールラインから下流約 200m まで。

台湾にはコースは 5 つあり、国際大会コースは 2 つである。唯、宜蘭コースもだが、川幅が狭く艇庫も古いので、新たなコースの建設を計画しているとの事。



コース



艇庫

- 3、参加国 カッコ内はエントリークルー数 / エントリー人数
 合計 18 カ国、68 クルー、選手 126 名、監督、コーチ等約 50 名の参加

国名	種目	クルー数	人数
Hong Kong(HKG)	JM1X, JW1X, JM2-, JM2X, JW2X, JM4X, JW4X	8	15
Indonesia(INA)	JM1X, JW1X	2	2
India(IND)	JW1X, JW2-, JM2-, JW2X, JW4-	5	8
Iran(IRI)	JM2X, JW2X, JW4X, JM4X, JW4-	5	12
Iraq(IRQ)	JM2-, JM2X, JM4X	3	6
Japan(JPN)	JM1X, JW1X, JM2X, JW2X,	4	6
Kazakhstan(KAZ)	JW1X, JM2-, JM2X, JW2X, JM4X	5	10
Korea(KOR)	JW1X, JW2-, JM2X, JW2X, JW4X, JM4X, JW4-	7	11
Malaysia(MAS)	JM1X, JM1X	2	3
Maldives(MDV)	JM2X	1	2
Pakistan(PAK)	JM1X, JW2X	2	3
Singapore(SIN)	JM1X	1	1
Sri Lanka(SRI)	JM1X, JW1X	2	2
Thailand(THA)	JM2-, JM2X, JM4-, JW4X, JW4-	5	11
Chinese Taipei(TPE)	JM1X, JW1X, JW2-, JM2-, JM2X, JW2X, JM4-, JW4X, JM4X, JW4-, JM8+	11	27
United Arab Emirates(UAE)	JM2-	1	2

Uzbekistan(UZB)	JM1X, JW1X	2	2
Vietnam(VIE)	JW1X, JW2X	2	3
18		68	126

4. 種目 (合計 11 種目)

JM1X, JM2X, JM2-, JM4X, JM4-, JM8+
 JW1X, JW2X, JW2-, JW4X, JW4-

5. 参加審判員

Jury Members (アジア 10 ヶ国合計 11 名) NFS Lic No.

- | | | |
|----------------------------------|-----|------|
| ① Chunxin Chen(P.Jury) | CHN | 1353 |
| ② See Hung Ng | HKG | 1369 |
| ③ Heblekar Krishnanand | IND | 1390 |
| ④ Khosravanjan Maryam | IRI | 1668 |
| ⑤ Masahiko Matsuda | JPN | 1614 |
| ⑥ Kay Dong-Hoon | KOR | 1635 |
| ⑦ Win Lynn Thar | MYA | 1658 |
| ⑧ Ponchanasomburana Praparnpongs | THA | 1558 |
| ⑨ MAO Ying-Hai | TPE | 1578 |
| ⑩ Tun BOBO | MYA | 1705 |
| ⑪ Ganiyeva Sevara | UZB | 1579 |



※Jury Member

6. 審判業務

① 部署配置 (小生)

	AM	PM
・ Sep, 4 th	: Umpire 3	/ Resp.C.C. (Board of Jury)
・ Sep, 5 th	: Umpire 1	/ Starter
・ Sep, 6 th	: Umpire 3 (Board of Jury)	
・ Sep, 7 th	: Judge at the Finish	

尚、各部署の人員は以下の通り。ITO は国際審判員、NTO は国内審判員。

a) Starter(発艇)	ITO 1 人、NTO 2 人
b) Judge at Start (線審)	ITO 1 人、NTO 3 人
c) Umpire(主審 主審艇は 4 艇)	ITO 1 人、Driver 1 人
d) Judge at Finish (判定)	ITO 2 人、NTO 3 人
e) Control Commission(監視)	ITO 1 人、NTO 6 人 (Resp./ Out/ In)
f) Boat Weighing(艇計量)	ITO 1 人、NTO 2 人

② 業務に関して

大会前日 9 月 3 日 (水) 15 時 00 分より **Jury Meeting** が開催された。自己紹介の後、審判長 **Mr.Chen(CHN)** から審判上の注意の説明があった。今大会はジュニアの大会である。規則は重要であるがジュニアである為、教育的な配慮も必要である。ペナルティを与える場面であっても「優しさ」を忘れてはならない。(我々は警察官ではない)

- ・安全が何よりも優先する。(Bow ball が適切に取り付けられているか。ヒールロープは規定通りか。(7cm))
- ・規則改訂通り、100m以内での艇の故障は認めない。
- ・Boat Weighing(艇計量)
 - Wire 等の機器類で艇に固定(firmly fixed)されているものは艇重量に含めるが、モニター類 (ストロークコーチ、コックスボックス) は艇重量に含めないとの事 (取り外す)。
- ・大会前日のコース見聞の際、発艇の **Traffic light System** で不正スタートの際のブザーが鳴らない事が判明した。この為、信号発艇を止め、通常が発艇旗による発艇とした。システムによる連動ではない為、発艇号令は無線で飛ばす事となった。尚、信号発艇は IMAS 製ではなく、Rossetti 製であ

った。

- ・ 審判艇は 4 艇、待機は 500m, 1000m, 1500m。
- ・ 国名を間違えない事。特に香港 (Hong Kong China)、台湾 (Chinese Taipei)。

a) Start(発艇)

以下写真の通り、発艇台は陸続きとなっていなかったため、通船で移動した。発艇は、Traffic Light は上記の通り使用しなかった。有線設備は無いので、発艇号令は拡声器、無線（全体無線で号令を判定の伝える）で行った。シンプルであるが、この方法は慣れていないとミスが生じる。拡声器のスイッチを入れていない。無線が通じない→通じない場合どうするか？等。止むを得ない事であるが、今大会の参加 Jury Member でも自国での大会が少ない等でレース経験に乏しいと上手く対応出来ない場面もあった。



発艇台・ステッキ



通船（発艇台へ）



Traffic Light(使用せず)



※発艇台



発艇台内 (Traffic Light System)



Yellow Card



b) Judge at Start(線審)

Judge at Start は、上記の通り、艇を揃えるのはボートホルダーが行うので、線審は揃ったか否かの確認の後、白旗を掲示する。(White Light は無)



※Judge at Start

ランプ等のシステムは無。旗で行った。

c) Umpire(主審)

Umpire ボートは 4 艇、救助艇は 4 艇あった。待機位置は約 500m、約 750m、約 1250m、約 1750m。

ドライバーは NTO であったが、レース経験を積んでいるので運転技術は問題

無かった。英語を話せないドライバーもいたので、コミュニケーションに若干苦勞した。



審判艇



審判艇の取り付けられた拡声器

d) Judge at Finish(判定)

発艇のシステムが使用出来ないなので、タイムはストップウォッチで計測された。

判定部署にブザーが各椅子に6つ配置されていた。(下写真左)これは判定部署のすぐ隣にある電光掲示板にタイムが瞬時に掲示されるものであったが、P.Jury Mr.Chenは観客席から遠く、又、ブザーは1つが望ましいとの理由から使用しなかった。



※判定



写真判定



システムを使用しなかった為、ブザーは上記写真のものを使用



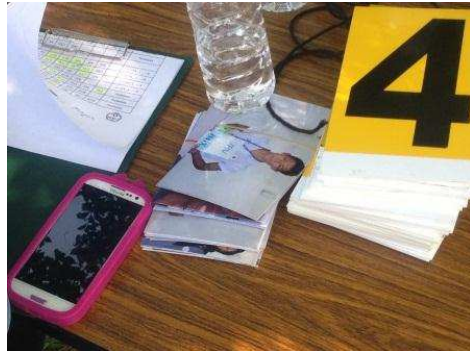
ゴールライン付近に設置された電光掲示板

e) Control Commission(監視)

Bow Number Plate は発艇の 40 分前にクルーに渡される。少し遅い様な気もするが、アジアの大会では一般的の様である。栈橋に予め艇を浮かべておき、Bow Number を受け取り、すぐに出艇するクルーもいた。

栈橋での確認事項は、Crew 名、国籍、氏名、Bow Number Plate、Heel Rope、ユニフォーム、Photo Check 等であった。Photo Check、Heel Rope check は NTO が行った。Photo Check は I-Pad、ラミネート加工された監視カードではなく、現像された Photo(写真)で確認した。

又、Boat Weighing 対象艇は、監視員が艇計量所まで同行した。



Crew の確認に使用した写真（中央）

g) Boat Weighing（艇計量）

艇計量は P.Jury(審判長)が艇計量対象クルーを決定し、帰艇後、Boat Weighing がある事を告げ、計量場まで同行する。大会初日、小生が Resp.Commi.時に KAZ JM2-クルーが艇重量不足となった。規定重量 27kg に対し、26.4kg。通常、艇計量不足時は計測値をプリントアウトし、Test Weighing を含め 3 回の計量を行う（手順は以下記載）

然し乍、プリントアウトの設備は無く、単に計測するのみであった。然も、計測器は 1 つではなく、2 ヶ所のウマに設置された各々の計測器の計測結果を合計するものであった。又、Test Weighing 用のおもりも準備されておらず、重量不足時に記載する用紙も無かった。

P.Jury 報告の上で、計測は 1 回とし、手書きで艇計量不足である旨、記載し、Resp.C.C.の小生及び KAZ クルー代表者が署名し、P.Jury に提出した。今大会期間中は非常に暑く、艇がすぐに乾いてしまうからか、大会通じて数クルーが艇計量不足となった。

※Rule 上の艇計量不足時の対応は以下の通りである。

BUW の手順は以下の通りである。1 回目の計量記録用紙に”First Weighing”と記載、Res, Boat Weighing とクルー代表者が Sign する。

次に Test Weighing を行う。今回は 10kg の Weight が用意されていた。この記録用紙に”Test Weighing”と記載し、前述の 2 名が Sign する。次に 2 回目の Boat Weighing を行い、その記録用紙にクルー名及び”Second Weighing”と記載し、前述の 2 名が Sign する。BUW の旨を Judge at Finish に無線で連絡し、この 3 枚の記録用紙を President of Jury(審判長)に提出する。

IV. Japan Crew の結果

今大会には日本から 4 クルーが参加した。(JM1X、JM2X、JW1X、JW2X)結果は以下の通り。

- ・ JM1X 3 位
- ・ JM2X 優勝
- ・ JW1X 4 位
- ・ JW2X 優勝

V. 本大会で提出された Protest

本大会では以下のケースで Protest が提出された。

1. Japn Crew (JW1X) 再レースについて

9 月 4 日 (木) 大会初日 JW1X Heat 2 10 時 15 分発艇のレースにおいて、Jury のミスにより再レースが行われる事になった。
クルー及び Jury(Start Area)は以下の通り。

- 1 レーン Kazakhstan (KAZ)
- 2 レーン Vietnam (VIE)
- 3 レーン Sri Lanka (SRI)
- 4 レーン Japan (JPN)
- 5 レーン China (CHN) DNS(棄権)

Jury 担当は、

- Starter : Mr. Krishnanand (IND Lic No.1390)
- Judge at Start : Mr. Praparnpongs (THA Lic No.1558)
- Umpre 2 : Ms. Maryam (IRI Lic No.1668)

分読み、ロールコールは適切に発せられたが、「Attention」後、「Go」の音声が入らず、発艇旗のみが振り遅された。その後、約 3 秒後に Starter が「Go」を発した。当 Starter に確認した処、喉がつまり声が出なかったとの事。
各クルーはスタートし、2000m を全艇が漕了した。ゴール後、クルーからの objection (異議申立) は無く、Umpire (主審) は白旗を掲げた。
当該レースの着順は以下の通り。

Rank	Lane	Nation	Name	500M	1000M	1500M	2000M	Qualification Rules
1	L4	JPN	Takashima,Miharu	02:07.02 (2) 02:07.02	04:24.36 (2) 02:17.34 (2) 04:24.36	06:43.41 (2) 02:19.05 (2) 06:43.41	09:04.90 (1) 02:21.49 (2) 00:00.00	2→ FA :3→→R
2	L2	VIE	Pham,Thi-hue	02:14.62 (3) 02:14.62	04:35.22 (3) 02:20.60 (3) 04:35.22	06:57.29 (3) 02:22.07 (3) 06:57.29	09:24.02 (2) 02:26.73 (3) 00:19.12	2→ FA :3→→R
3	L1	KAZ	Oracheva Juliya	02:15.76 (4) 02:15.76	04:37.24 (4) 02:21.48 (4) 04:37.24	07:03.98 (4) 02:26.74 (5) 07:03.98	09:32.27 (3) 02:28.29 (4) 00:27.37	2→ FA :3→→R
4	L3	SRI	Gajanayake	02:20.94 (5) 02:20.94	04:46.36 (5) 02:25.42 (5) 04:46.36	07:09.06 (5) 02:22.70 (4) 07:09.06	09:40.19 (4) 02:31.13 (5) 00:00.00	2→ FA :3→→R

※1 着、2 着は Final A へ、3 着、4 着は Repechage へ

その後、KAZ、SRI 代表者から Protest が提出された。内容はスタートの音声が入っておらず、不適切な Start であり、再レースを要求するものであった。これに基づき、Board of Jury で協議がなされ、この Protest を accept し、再レースを決定した。大会初日午前の Board of Jury(3 名)は以下の通り。

Mr. Chen (CHN P.Jury Lic.1353)

Mr. Krishnanand (IND Lic.1390)

Ms. Sevara (UZB Lic.1579)

この再レースの決定に就き、当該レース参加クルー代表者を集め、Board of Jury より同日 13 時 00 分頃発表された。日本は藤井団長が参加、小生も同席。始めにレースの経緯(上記)の説明があり、P.Jury Mr.Chen から Jury のミス認め謝罪された上で、再レースを accept してほしいと御願ひされた。

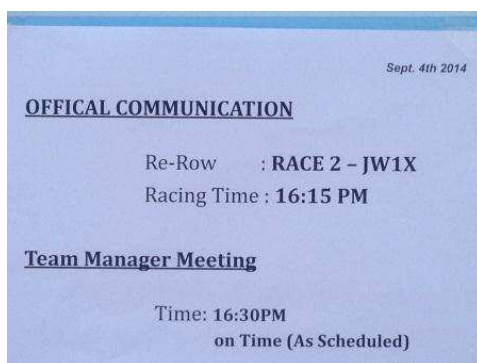
藤井団長は当初この決定を不服とし、音声は無くとも発艇旗が振られたので正常な発艇ではないか。再レースは選手に負担を掛け、他の Heat 出漕のクルーと疲労度で不公平が生じる。1 着の JPN と 2 着のクルーの差は約 20 秒であり、着順に影響はないのではないかと、との意見を出した。然し乍、P.Jury Mr.Chen は謝罪の上で、Start は発艇旗と音声と同時に為されるべきものであり、そのいずれか一つが欠けても正常な発艇とは言えない。その為、全艇で再レースせざるを得ないと回答。

最終的に JPN、VIE は再レースを accept し、同日 16 時 15 分から再レース (Re-row) が行われた。

再レースの結果は以下の通り。

RESULT LIST						
JW1X						
Race 2						
JW1X Rerow 16:15 2014/9/4						
比賽地點 - 宜蘭縣冬山河划船水域						
Lane	Nation	Name	500M	1000M	1500M	2000M
L4	JPN	Takashima,Miharu	02:10.84 (1)	04:31.90 (2)	06:53.76 (2)	09:16.82 (1)
				02:21.06 (2)	02:21.86 (2)	02:23.06 (2)
			02:10.84	04:31.90	06:53.76	09:16.82
L1	KAZ	Gracheva,Juliya	02:15.92 (3)	04:39.96 (3)	07:06.68 (3)	09:35.11 (2)
				02:24.04 (3)	02:26.72 (4)	02:28.43 (3)
			02:15.92	04:39.96	07:06.68	09:35.11
L2	VIE	Pham,Thi-hue	02:21.22 (4)	04:47.72 (4)	07:13.71 (4)	09:44.30 (3)
				02:26.50 (4)	02:25.99 (3)	02:30.59 (4)
			02:21.22	04:47.72	07:13.71	09:44.30
L3	SRI	Gajinayake	02:24.72 (5)	04:53.50 (5)	07:26.89 (5)	09:59.81 (4)
				02:28.78 (5)	02:33.39 (5)	02:32.92 (5)
			02:24.72	04:53.50	07:26.89	09:59.81

※着順で当初のレースから VIE と KAZ が入れ替わった。



2. Final A JW4X Korea (KOR) Crew 9月6日(土)

Starterが3分前のコールを掛けた後、Korea Crewに服装を統一する様指示した。然し乍、KORはストローク、3番、2番は同じ帽子を被っており、Bowのみ被っていないという、ルール上問題無い状態であった。然し乍、Starterは全員同じ帽子を被らなければならないと勘違いしており、Bowが同じ帽子を持っていなかった為、全員帽子を取らせた。KORは2着となり、1着の台湾(TPE)と約3秒差であった。

本件に就き、KORからProtestが提出された。内容は、ルールを守っているにも関わらず帽子を取らされた為、パフォーマンスが落ち不利益を被ったとの事。同日のBoard of JuryにはKOR ITO Mr.Kayが入っていたが、P.Jury Mr.ChenはKORのProtestをKORのITOが判断すべきではないとし、代わりにJPNの小生が指名された。

Board of Jury の P.Jury Mr.Chen(CHN), Ms.Maryam(IRI), 小生の 3 名で協議を行い、帽子を被るか否かで 3 秒の差に影響されたとは判断出来ない。従ってこの protest は accept 出来ず着順通りとし KOR に伝えた。

3. Final A JW4X Hong Kong(HKG) & Iran(IRI) Crew 9 月 6 日 (土)

Final A 3 着 HKG 及び 4 着 IRI が同レース 1 着 TPE の Boat Weight を再度行う様、Protest を提出した。同レースの Boat Weighing 対象クルーは確かに TPE であり、計測された重量は規定重量ギリギリの 52kg であった。

無論、この Protst は accept されなかった。

今回の艇計量部署はテントを張っただけのものであり、誰でも自由に入る事が出来る。設備上致し方無いかもしれないが、出来る限り密閉された空間で計量すべきであろう。

4. Final A / JM2- Iran(IRI) 9 月 7 日(日)

JM2-の参加クルーは 6 クルーであった為、Preliminary Race を初日に行った。

KAZ クルーはこの Preriminary Race で最下位であったが、Final A のレースで優勝した。この結果について IRI クルーから Preliminary で最下位であったにも関わらず優勝する可能性は低い、結果に間違いがあるのではないか、との Protest が提出された。この判定に誤りは無く、この Protest は却下された。

KAZ が Preliminary Race で最下位となったのは、上述小生が Resp.C.C.時に艇計量不足となった為である。

※FISA Rule の異議申立手順 (Objection / Protest / Appeal)

参考までだが、FISA Rue 上の異議申立の手順を以下記載する。

1. クルーは当該レースが適切に行われていないと判断した場合、レース後すぐに挙手し、主審に対し Objection をする事が出来る。
2. 上記 1 の Objection が却下された場合、若しくは他の Objection の accept により影響を受けたクルーは、次のステップとして、Protest を P.Jury(審判長)に書面にて提出する事が出来る。この Protest は、主審の決定後、若しくは結果公表後から 1 時間以内に提出しなければならない。Protest 提出には CHF 100(スイスフラン)、若しくはこれと同価値のものを支払う。この Protest が accept されればこの金銭はクルーに返金される。

Protest が提出された場合、Board of Jury がその Protest が正当か否かを決定する。Board of Jury は P.Jury 及び P.Jury が指名する 2 名の Jury、合計 3 名で構成される。

3. 上記 2 の Protest による Board of Jury の決定に対し、書面にて Appeal する事が出来る。

a) Intenational Regatta の場合

Appeal は Boad of Jury の決定が為されてから 3 日以内に Executive Committee に対して書面にて行う。

b) World Rowing Championship, Olympic, Youth Olympic, relevant qualification regatta, World Cup の場合

Appeal は Board of Jury の決定が為された同日に Executive Committee に対して書面にて行う。

VI. 各写真



Team Manger Meeting



ホテルでの食事風景



ホテル内に置かれたミネラルウォーター
(500mL ボトル) 関係者に自由に持って
行ける



宿泊ホテルロビーに設置された各国用
Box



救助艇は地元の消防署員が任務に就い
ていた



プレスルーム

VII. 終わりに

今大会は宜蘭市が力を入れて盛り上げようとしている事がよく実感出来た。Opening Ceremony、懇親会場でも台湾ボート協会上層部が各国関係者等と積極的に交流をされていた。

設備等では各国同じ状況ではあるが、資金面での苦労が垣間見られた。あるものを最大限に活用しながら大会を運営している事を強く感じる。

又、今大会は Protest が多く、Jury のミスに依るものがあった。審判のレベルはその国の代表クルーのレベルに比例すると言っても良いであろう。アジアの審判レベルを上げる為に日本が指導的な力を発揮出来る様にしなければならない。

最後になりましたが、**Jury** のミスにより **Japan Crew** に **Re-Row** を行わせた事を **Jury Member** の 1 人として御詫び申し上げますと共に、**Re-Row** を受け入れて下さった日本選手団に心より敬意を表します。

以 上